

## 妊 娠 中 の 女 性 と 喫 煙 に つ い て

### 行政のとりのくみ

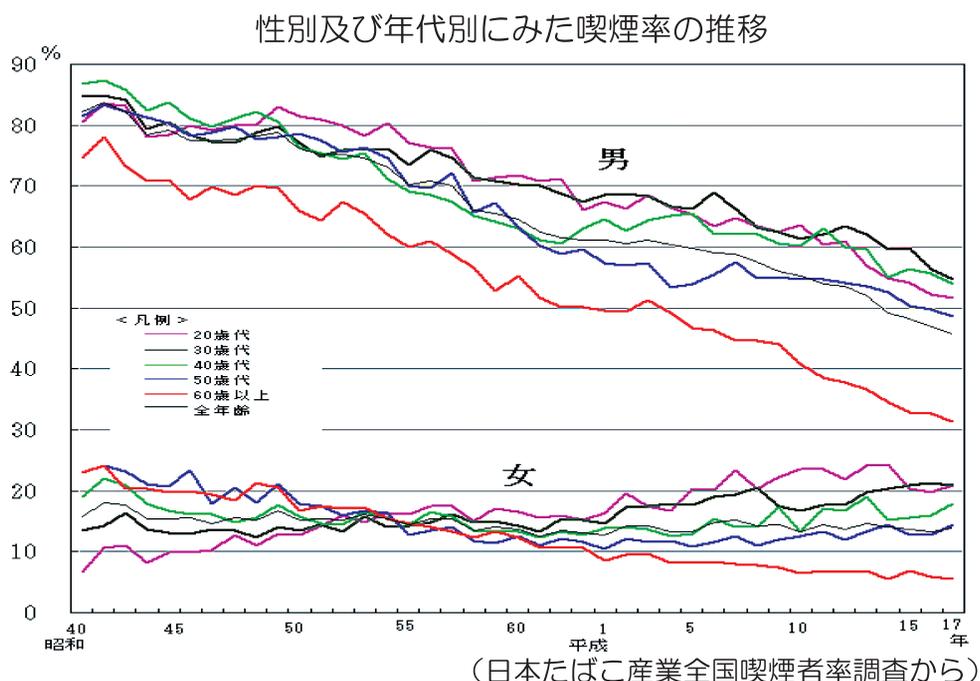
平成15年に健康増進法が施行されて以来、多くの人たちが利用するあらゆる施設において、禁煙対策が講じられるようになりました。

京都市においても、平成14年に策定された「京都市健康づくりプラン」の中で、女性に対して「妊娠中の喫煙をなくすこと」が目標に掲げられました。

加えて、平成19年11月1日から、京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例も施行されています。

### 全国的な傾向

喫煙をなくす流れを受けて、全国的には、男性の喫煙率は減少傾向にある一方で、女性、特に若い世代の女性の喫煙率は、増加傾向を示しているという報告があります。



### 京都市の実態

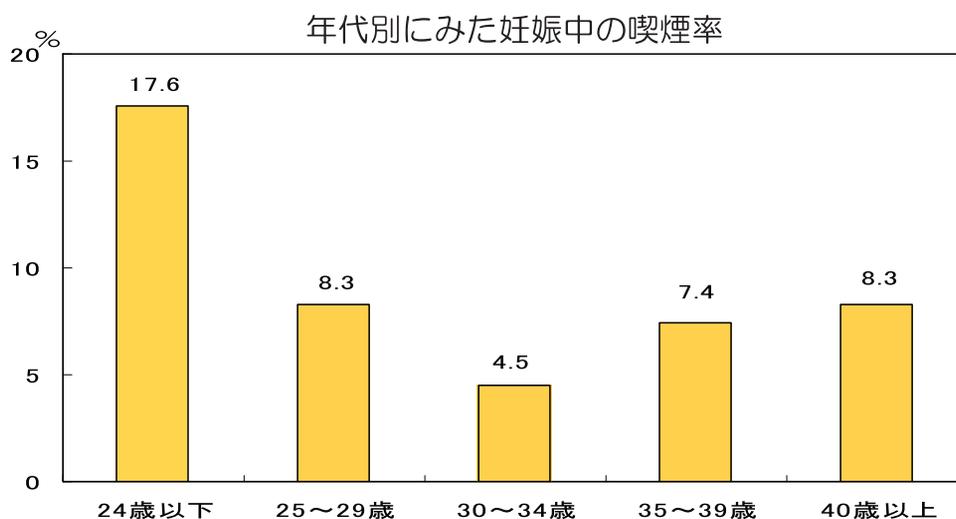
京都市では、平成19年2月、市内の保健所と支所で4か月児健康診査を受けにきたお母さんに対し、妊娠前後の喫煙と飲酒の状況について母親アンケート調査を実施しました。

今回は、このアンケートを集計した結果、現れた喫煙に関してのいくつかの傾向について紹介します。

アンケートに回答してくださったお母さんの年齢は、24歳以下が74人、25～29歳が169人、30～34歳が286人、35～39歳が136人、40歳以上が24人、合計689人でした。

回答者の妊娠前後の喫煙率は、妊娠前 23.4%、妊娠中 7.5%、出産後（現在）9.0%と変化しました。

また、夫の喫煙率は 43.1%、同居家族を含めた喫煙率は、46.3%でした。



今回の調査では、妊娠中に喫煙しているお母さんについては、特に24歳以下の喫煙率が高く、「夫も喫煙している」と関連がみられました。

また、喫煙が及ぼす周囲への影響（受動喫煙の害）については、むしろ「知っている」と回答されたお母さんの方が、喫煙率は高い結果となりました。

妊娠中にいったん禁煙していたお母さんの約2割は、出産後に喫煙を再開していました。

また、妊娠中に喫煙していることと妊娠中にお酒を飲んでいることにも、関連がみられました。

## 最後に

妊娠中の喫煙の害については、流産や早産が起こりやすい、小さい赤ちゃん（低出生体重児）が生まれやすいなどと言われています。

また、喫煙しているお母さんの母乳には、ニコチンが含まれることが知られています。さらに子どもの周囲での喫煙は、子どもの身体発育に影響があるとも言われています。

この調査からは、受動喫煙の害について、「知っている」と答えたお母さんの方が、喫煙率は高いことから、言葉ばかりが先行し、その内容までは、あまり浸透していないのではないかと危惧されます。

今後は、赤ちゃんへの影響や受動喫煙の害などについて、正しい知識をさらに広めていくとともに、夫も含めた家族全体で、喫煙の害について考えることが必要です。

（参考になるホームページ）

「厚生労働省の最新たばこ情報」 <http://www.health-net.or.jp/tobacco/front.html>